

平成 24 年 12 月定例会

代 表 質 問

新風会 吉田康弘

新風会を代表して、本定例会の質問に立たせていただきます。

12 月 16 日に投開票が行なわれる衆議院議員選挙のさなかにあつて、国政の目指すところも、平成 25 年度の予算編成も選挙の結果次第という、不透明な状況にあります。しかしながら、小矢部市は基礎自治体としてしっかりと市民生活を守っていかねばなりません。そんな思いで代表質問をさせていただきます。

第 1 点目として、市政施行 50 周年記念事業のメインテーマ「小矢部ルネサンス」について、今後の取り組みをお尋ねいたします。

昨年の 12 月定例会でも代表質問に立たせていただき、今回と同じように「小矢部ルネサンス」について、桜井市長の構想をお尋ねしました。

市長の答弁は「小矢部市政施行 50 周年を契機に先人から受け継いだ土地、人、地域資源を再評価し、そこから小矢部市の新たな魅力を生み出していくことこそが小矢部ルネサンスである」と応えておられます。そして三つの構想を持って取り組むと答弁されました。

石動駅周辺にぎわいゾーン構想

小矢部インターチェンジ周辺ショッピングゾーン構想

源平の倶利伽羅歴史体験ゾーン構想

50 周年を記念した行事が数多く開催された平成 24 年度でしたが、このままで終わるはずではないものと思っております。平成 25 年度は小矢部ルネサンスをメインテーマにした、具体的な再生復興の事業展開があると期待しています。改めて、今後の決意をお聞かせいただきたいと思えます。

2 点目の質問に移ります。

北陸新幹線と並行在来線についてお尋ねします。

富山県内の全市が関わる第三セクター会社によって運行される並行在来線は、今後の交渉によって、はっきりと明暗を分ける展開が待ち受けるであろうと思います。北陸本線沿線の其々の市にとって、将来を明るく展望できる市と不条理な思いを深める市ができてしまうのではないのでしょうか。富山県の西端にある石動駅を持つ小矢部市にとって、まさに正念場といえる局面ではないのでしょうか。

北陸新幹線の振動と騒音、金沢どまりの特急列車、越境乗継ぎの不合理と運賃の値上げ、普通列車の運行本数の維持すら精一杯。危険な踏切さえも存続する。

そんなことのないように、これからの交渉にあたっていただきたいのです。

小矢部市が目指す目標はふたつ。

テレビのコマーシャルにもあるように、富山や高岡、そして金沢方面への通勤通学の利便性の向上を目指す。

永年不都合を強いられてきた踏切を平端で歩道のあるものにする。

特急が来ないなら、来ても止まらないなら、これこそが最終目標であるとしてすばやく方針転換をする。石動駅を高速で走りぬける列車があるようでは平坦な踏切を実現することはできません。

市長の見解を求めます。

3点目の質問に入ります。

地域資源を見直す取り組みについてお尋ねします。

今年、ようやく7福神が揃いました。

宮島峡のブロンズ像も数多くあります。

埴生から倶利伽羅にかけては歴史国道として整備されたふるさと歩道と数多くの石碑や峠の茶屋跡などがあります。倶利伽羅の古戦場にちなんだ数多くの史跡を生かしていくことが必要であろうと考えています。

大河ドラマの誘致を進める一方で、貴重な資源に磨きをかける取り組みも必要ではないでしょうか。

先日、富山県庁で富山県の観光連盟が作ったパンフレットを手にとって見ておりましたが、小矢部市の観光拠点があまり紹介されていない事と富山県のお土産を紹介するパンフレットにも小矢部産のものが何もない現実に愕然としました。

小矢部市としての、今後の取り組みにおいて明確な課題があると思っております。これらのことについて市長の見解を求めたいと思います。

以上3点の質問についてお答えください。

(再質問を予定していますので、よろしくお願ひいたします。)

## 再質問

先人から受け継いだ地域資源は市内各地に非常に多く存在しています。

石器時代の「臼谷岡村遺跡」、縄文時代の「桜町遺跡」、弥生時代の「平桜川東遺跡」、「五社遺跡」に始まり4世紀の関野古墳、6世紀の初頭の「若宮古墳」さらに8世紀には大伴家持が朝廷から従5位の下という位を得て、この倶利伽羅峠を越えて富山県に赴任しています。そして12世紀の「倶利伽羅古戦場にまつわる数々の史跡」を残しながら、16世紀には佐々成政、前田利家といった武将が登場した時代に移り、市内には今石動城、道坪野城、安楽寺砦、松根城といった山城の史料が、多く残っています。小矢部市の開祖、前田利秀公が今石動4万石の城主となったのは天正14年(1586年)であったといわれています。

加賀藩の藩政時代には今日まで受け継がれている「曳山」「獅子舞」「夜高行灯」といった祭り文化を残しています。

小矢部市はまさに歴史文化の宝庫といえるわけですが、とりわけ増生から倶利伽羅にかけて、磨けば光る貴重な宝がたくさんあります。

すでに歴史国道として整備された「ふるさと歩道」をはじめとする地域資源を大河ドラマ誘致の気運に乗せて、磨きをかける取り組みが必要であります。是非ともご検討ください。

## 再質問

富山県の観光連盟が作ったパンフレットに小矢部市に関する取り扱いが少ないことについて、課題があると申し上げたのは富山県と小矢部市の関係が薄くなっているということ。小矢部市の存在感が小さいことを量らずも言い当てています。このことは観光行政のみならず、並行在来線の問題でも、都市計画のマスタープランの問題においても、道路行政や企業立地、既存商店街の再生復興といった観点からも危機感を持ってあたるべき課題であります。この課題解決のためには、良好な人間関係を積み上げることが必要です。今年の6月定例会において、職員研修の必要性を質問しましたが、「新たな採用が必要となるので長期研修は困難」との答弁をいただいています。しかしながら、現状において懸念や課題が無いなら構わないのですが、到底そのようには思えないのです。

優秀な職員を、人事交流や長期研修に送り出すのは、市長として辛いかもしれませんが、小矢部市としての対応力強化・人材育成強化は、喫緊の課題であり、検討に値すると考えます。市長の見解をお尋ねします。

## 再々質問

2000年に地方分権一括法が施行されました。その後、地方自治法の改正も何度か行なわれ、今では、小矢部市当局が提案し議会が議決すれば、ほとんどの事案は国や県に影響されることなく自己決定できる時代となりました。自己決定は自己責任を伴い、議会も従来の追認議会から二元代表の一翼を担う議決機関の責任を負わねばなりません。

小矢部市議会はこれまで以上に、緊張感を持って小矢部市当局と共に、最良の選択を求め続けていかねばならないと考えております。

いろいろと質問させていただきましたが、以前の議会とは大きく変わりつつある議会の姿に対し、市長としての所見をお聞かせいただき、質問を終えたいと思います。